

「人権尊重社会の実現」 2月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

「おはよう」「ありがとう」「がんばって」「日頃何げなく発する1秒にも満たない短い言葉ですが、人はその言葉に気持ちを含め相手に伝えます。また、その言葉に相手の心遣いや思いやりを感じます。

以前読んだ本に、こんな話が載っていました。Sさんが商談である会社を訪れた時のこと。寒い中、玄関で出入りの世話をする警備員に「大変ですね」と声をかけたそうです。すると「大変な仕事も、この会社だと疲れません」という返事。「なぜ?」という顔をしたら「この会社は、派遣されている私たちを差別せず、職場の一員として接してくれます。名前もすぐに覚えて『〇〇さん、おはよう』と声をかけてくれる。だから、ここで働くのが楽しくて」

と話してくれたそうです。

自分のことを振り返ってみたとき、この話のように、家族や友人からかけてもらった言葉で心が軽くなったことはありませんか。

人は、お互いに声をかけ合い、意見を交換し合うことや言葉を通じてコミュニケーションを図ることで、理解し合うことができます。物は人にあるとなくなってしまう。しかし、優しい心や愛情のこもった言葉は人にあけてもなくなりません。それどころか、相手に喜んでもらうことによって、優しい心は増えていきます。

人権問題は、人と人との間に生まれます。だから、人と人とを心地よくつなぐ、そんな言葉を選んで使いたいものです。そんな身近な日々の行いが、ぬくもりのある人間環境をつくっていくます。一期一会という

言葉があるように、一つ一つの出会いに感謝し、優しい言葉で人と人をつないでいきましよう。人権尊重の社会は、こんなやさやかなことから出発するのではないのでしょうか。

